

おだがいさま

odagaisama

第38号
平成24年
1月15日発行

笑顔で「ヨイショ！」
みんなでいっしょに餅つき体験

地域支え合い活動(P2~3)

会長年頭のあいさつ(P3)

情報掲示板(P4)



柳引地域の福祉施設では、30年ほど前から、出羽商工会青年部柳引支部の協力のもと、園児たちや高齢者に昔ながらの杵と臼を使った餅つきを披露していただき、つきたてのお餅を味わう機会を持っています。

この日は、柳引地域の各福祉施設に支部員が分かれて訪問。くしひき東部保育園を訪れた支部員は園児たちにも『餅つき体験』をさせてくれました。順番に杵を持った年長児が♪ぺったん ぺったん♪と上手にお餅をつくと、園児たちは「ヨイショ！ヨイショ！」の掛け声がかり、園全体が活気にあふれました。園児たちは体験したことのない餅つきを楽しみ、つきたてのお餅はきなこ餅や納豆餅等にしてみんなでおいしく食べました。

柳引では、地域みんなで園児や高齢者を見守る、福祉のまちづくりを進めています。

自分たちのまちの「福祉」は自分たちで創る

住民同士の日頃からの支え合い活動が、いざという時の助け合いにつながります！

東日本大震災の発生により、私たちは改めて災害の恐ろしさを認識し、災害発生時に高齢者や障がいのある方々が直面する問題の大きさも再認識しました。

災害時、自分のことは自分で守る「自助」、そして、近隣住民同士の日頃からの助け合い・支え合い「共助」が大切になります。同じ地域で暮らす人たちを知り、地域一体となって、防災や見守りネットワークづくりなどの取り組みを考えてみましょう。



地域支え合い活動とは？…

支援が必要な方を地域で見守り、支える、地域住民の主体性に基づき行われる助け合い活動です。

地域の支え合いについて、地域で話し合わされた内容の一部をご紹介します。



地区社会福祉協議会情報交換会(鶴岡)の様子

◎日頃からの見守り活動について

- ・あせっかいと言われても声を掛けることが大事。
- ・夜遅くまで、または朝まで灯りがついている家に声を掛けることにした。
- ・4月の停電の時、隣近所で朝まで自宅に泊めてあげた。日中とは違い夜中は不安感が増す。
- ・震災時、民生委員が一人暮らし高齢者世帯の安否を確認した。
- ・災害時、特に日中の災害時の対応や安否確認の方法について検討が必要。
- ・隣近所の付き合いが薄れてきてるので、地域で一人暮らしの見守りや要支援者を把握する必要がある。
- ・地域にとって身近な介護施設や、介護相談の窓口設置の必要がある。（介護者の負担軽減）
- ・安心袋を設置したが、今後もその活用方法などについて検討していく必要がある。 など



小堅地区防災福祉マップ

◎防災マップについて

- ・マップに情報を入れ過ぎると肝心な情報が見えづらくなる。情報の見極めも必要になる。
- ・高齢者世帯等の情報把握が難しい。
- ・マップ作成を進めていたが、これほどの大震災には対応できないと考え、作成を見直している。 など

◎非常持出し袋の設置について

- ・大震災を受け、袋の設置につながった。
- ・地区の福祉まつりのバザーの売上で袋の中身を毎年購入し、高齢者世帯に届けている。
- ・袋にたくさん入れ過ぎると非常時に持ち運べない心配がある。自分には何が必要か考え、自分に合った袋を準備することが大切。
- ・災害時だけでなく、病気の時など、着替えや連絡先が入った袋を準備しておくのも良い。
- ・薬が一番必要になる。袋に入れておく他に、自宅に不在の場合、他の安全な場所にも薬を置いておかなければと考えている。 など



温海温泉自治会による防災訓練
地域支え合い活動で様々な活動をしています



住民同士のつながり～各地域で取り組んでいます～

絵手紙ふれあい訪問(第一学区社協)



研修会で絵
手紙を作成し
ました！

孤立しがちな高齢者宅に、福祉協力員が絵手紙を配りながら見守りをしています。

あんしん見守り事業の実施(朝日上名川集落)



見守りサロン

一人暮らし高齢者などを地域の見守りボランティアが声かけ・見守りをしています。

安心カードの設置(柳原地域各自治会)



住民組織、関係機関が協働して、一人暮らし高齢者等のお宅の冷蔵庫内に設置し、緊急時に活用します。

安心袋の設置(湯田川地区社協)



一人暮らし高齢者宅に緊急連絡先等を記載する安心シートと、シートを入れる袋を配布しています。その後も設置してみての感想の聞き取りもしています。

各地域でさまざまな活動が行われています。

鶴岡市社会福祉協議会では、住民同士の助け合い活動を積極的に応援していきます！

陸前高田に神戸から届けられた「希望の灯り」・人々の心に希望が点るように願つてやみません。

当社協としましては「おだがいさまのまちづくり」を基本理念に地域福祉の推進を図つて参ります。
市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



年頭のごあいさつ

「おだがいさま」の
心が通い合うまちへ

会長 富樫 毅

市民の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
東日本大震災の被災地支援に市民の皆様のボランティア活動をはじめ
数多くのご支援に心から敬意と感謝を申し上げます。

ボランティア「かたづけ人」に参加した皆さんのが感想は被災地の皆さんを忘れてはならない、継続しての活動が必要だ、助け合いの大切さを知った、交流が出来た等々で被災地の皆さんへの思いと充実感のあふれたものでした。「こまつた時には助け合うのはおだがいさま」そして「共に生きていこう」というメッセージを行動で示されているのだと感じ入ったところです。この力を鶴岡のまちづくりにも発揮してもらいたいと切に思います。

また、今回の震災を契機にある町内会では「助け合い組織」の検討を始めました。検討事項は、①高齢者の見守りネットワーク ②災害時（地震・水害・火事）の歩行困難者の援助体制 ③防災訓練、避難訓練等が主なものです。コミュニティ活性化の第一歩とも言える意欲的な検討会などと思います。他地域への拡がりを期待すると共に精一杯のご支援をしなければと考えています。二つの例は、人と人との支え合いを大切にして誰もが住みなれた地域で安全、安心な生活が出来る“まち”をつくり、とする熱い行動であります。

当社協としましては「おだがいさまのまちづくり」を基本理念に地域

